

## 令和3年度第1回北海道立旭川美術館協議会 議事録

★旭川美術館協議会は、学識経験者、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、公募の委員で構成され、毎年度2回（通常は7月と2月）開催されます。美術館の活動について、館長に意見を述べるができる諮問機関です。委員の過半数の出席で成立します。

- 1 日 時 令和3年7月30日（金） 14:00～16:00
- 2 会 場 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席者数 協議会委員12名中11名出席 美術館職員6名（館長および正規職員）
- 4 出席委員 石前聖香、大石朋生（副会長）、小野田倫久、千葉幸恵、彦野優佳、  
福家 尚（会長）、福田詠介、藤村好美、星秀隆、本間公浩、村中一徳  
（12名中11名） <敬称略50音順>
- 5 議 事 (1) 令和2年度（2020年度）事業の実施状況について  
(2) 令和2年度（2020年度）道立美術館評価について  
(3) 令和3年度（2021年度）事業の運営計画について  
(4) その他

### ◎議事録（抄）

議事に入る前に、美術館職員（転入者）紹介、館長挨拶を行い、その後、第1展示室「江口寿史イラストレーション展 彼女」及び第2展示室「北の海辺を旅する」展を観覧。

観覧後、会長の議事進行により、次の議事について各委員に諮った。

### <議事についての意見等>

\* 事務局より令和2年度の展覧会等の実施状況、令和2年度の当館の美術館評価結果を報告するとともに、令和3年度の事業予定等を説明（展覧会、教育普及活動については映像でも紹介）。

事務局からの報告、説明に対して、美術館の役割に期待することや、今後このような取組をして欲しいというようなことについて、協議委員を通して意見や感想等を頂く。

● 旭川美術館の展覧会を楽しんだ流れから、その作品を持ってきていた施設にも家族で行ってきた。繋がりを持てて楽しかった。北海道の事を楽しく学ぶことができた。

● 今回の展示はライティングを明るくしていると聞いたが、作者の意見や新たな発想からこういう展示の仕方もあることを知り、凄く必要なことだと思った。暗い中に作品が浮かぶのも良いが、ポップな作品が明るい所で見られるのも良いと思う。

あと、Twitterのアイコンが何も無いより、何かあった方が暖かい雰囲気になると思う。

【事務局回答】⇒ 展示に関しては、お客様からは一般的に暗いと思われることが多く、ほとんどの美術館では作品保護のためというパネルをつけている。借用作品だと、照度を下げられると言われる事が多く、美術館の意思で明るくする事は許されない。今回は、作者本人の希望で照明全開で展示をしている。

- 評価の基準について、Cが多いと感じる。Aに近いBなどは、どれか1つぐらいAでも良いのではないかと思う。

【事務局回答】⇒ どこまで達成したらAかの明確な基準がない。他の美術館の評価とのバランスもあるので、地館とも共有しながら検討したい。

- コレクションの充実度について、令和2年度も寄附によって収蔵品が充実したということだと思う。美術館の役割として、日本や世界の一流の物を地域の人に観てもらうことも大切かと思うが、地域の美術品や文化品を保管していくことも大切な役割かと思う。そんな中で寄附だけに頼ると、欲しいものを保存出来ているのか伺いたい。

【事務局回答】⇒ 現在、道立美術館はそれぞれの館が独自で購入予算を持っているわけではないが、全体の予算に対して、各館で意見を出し合って優先順位をつけ購入に至るという形になっている。寄贈だけだとコレクションが多方面では充実しづらいが、近年はコレクターの方が代がわりして作品を手放すことが増え、その過程で地元の重要作家の作品寄贈に結びつくことも増えている。

- 常磐会からですが、今回の展覧会から特設売店のみ初めてキャッシュレスを導入しました。手数料も取られることなので色々ありますが、今後も継続出来たら良いと考えている。